

学部案内

2023



おもしろい
大学

富山大学 教育学部

University of Toyama : School of Education

共同教員養成課程

Joint Institute of Teacher Education

富山大学
×
金沢大学



教育学部共同教員養成課程

— 新しい形の学校教員養成 —

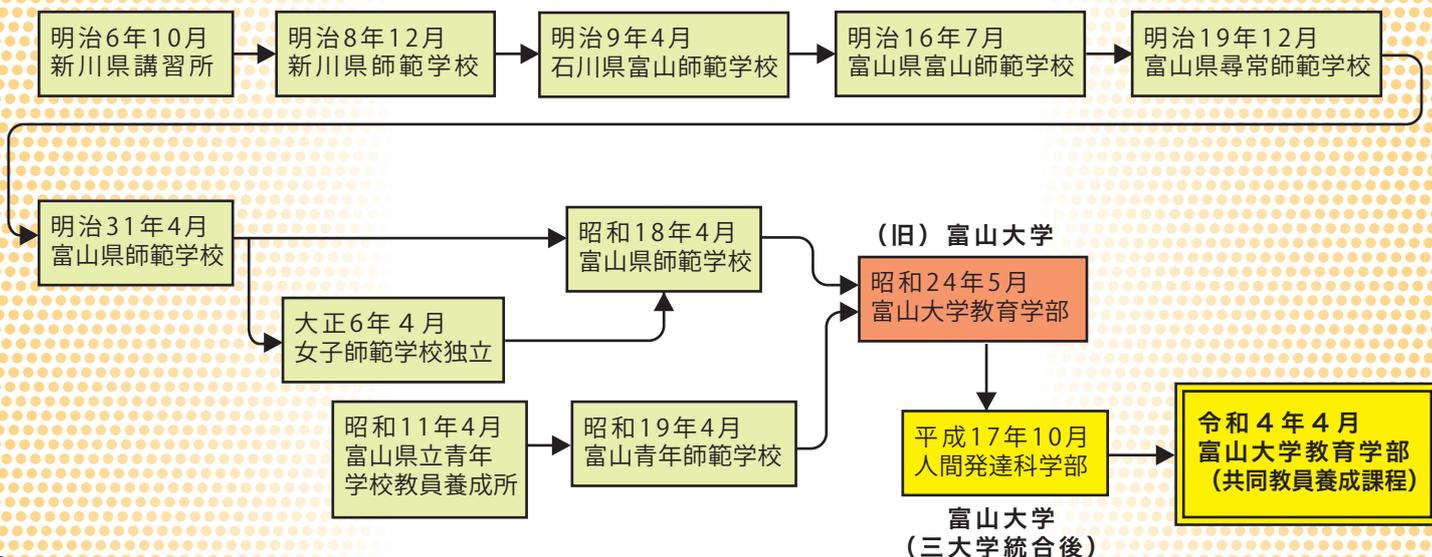
富山大学教育学部は、金沢大学人間社会学域学校教育学類との共同教員養成課程という形で、小学校、中学校、特別支援学校、幼稚園の各学校種について、**様々な教育課題に的確に対応できる実践的能力を備えた教員を組織的・計画的に養成することを目的**としています。福祉や情報に関する教育を含めて、人間発達科学部が培ってきた広い意味での教育人材養成の方法論と、金沢大学の学校教育学類が培ってきた学校教員養成の方法論とを合わせた、**新しい形の教員養成学部**です。

今、社会は多くの現代的教育課題を抱え、これに対応できる能力を持った質の高い教員が必要とされています。またプログラミング教育の導入や外国語学習の拡大なども進んでいます。こうした現状に対応できる能力を持った質の高い教員を養成するために、富山大学と金沢大学の双方から幅広く先進的な科目を提供し、県教育委員会との連携事業等も活用して、教員として必要な専門的知識・技能、子どもの成長を支援する力を身に付けてもらいます。また小学校と中学校といった異なる段階の学校種の間で教育をつなぐ重要性が指摘されている現状を踏まえ、**小学校教諭一種免許状を基本として2種類の教諭免許の取得を卒業要件**としています。**卒業時には最低限でも小学校教諭一種免許状ともう1種類の教諭免許の二つを取得できるのです。**

このように、本学部では、社会的・教育的要請に応えられるような能力を身に付けた教員として社会に出ていけるよう、充実したカリキュラムを用意しています。是非ともこの新しい教育学部で学んで、これからの社会の課題に対応できる教員を目指して下さい。

沿革

富山大学教育学部の源流は1873年（明治6年）に開設された新川県講習所という教員養成所に遡ります。以下では、明治期から現在に至るまでの教育学部の沿革を示します。



富山大学教育学部長からの メッセージ

富山大学 教育学部長 徳橋 曜



令和4年4月、新たに富山大学教育学部共同教員養成課程が生まれました。前身の人間発達科学部は学校教員の養成を中心に据えながら、幼児教育やスポーツ、福祉、生活、環境、情報など様々な観点から、生涯にわたる学習を支援する教育人材を育成してきましたが、この富山大学教育学部は金沢大学人間社会学域学校教育学類と共同して、学校や幼稚園の教諭を養成する学部、つまり先生になるための学部です。富山大学の学生は、金沢大学が提供する科目や実習も履修しながら、4年間、幅広く専門的な知識やスキルを学び、3年次と4年次の教育実習だけでなく、1年次から学校インターンシップやふれあい体験等を通して、学校現場を体験していきます。

学部として重視したいのは、教えることに理想と情熱を持ち、実践的な知識・能力と広い視野を備えているだけでなく、何より、子どもを理解し、子どもと共に楽しみ、成長できる、そんな教員を育てることです。もちろん教師という職業は楽しいだけではありません。でも、子どもたちが学びに関心を持ち、目を輝かせてくれる瞬間があれば、そうした苦勞も報われるものです。苦勞があったとしても、子どもたちと過ごす時間を自分の仕事にしたい、子どもたちに学ぶことの意味と喜びを伝える先生になりたい。そんな気持ちを持った人は、ぜひ富山大学教育学部へ入学して下さい。熱意のある皆さんを待っています。

質問です。富山大学教育学部と金沢大学学校教育学類が、工学部や経済学類と異なっているところはどこでしょうか。答えは、カリキュラムが特定の職業に直結していることです。富山大学と金沢大学が運営する共同教員養成課程は「教員になるための課程」です。他の学部や学類では、入学後に具体的な自分の将来の職業を考え始めるのが普通なのですが、教員養成課程は入学前に将来像を決めていることが求められます。大学では医学部が似たような性質を持つ教育組織です。医学部は医師という職業のための知識や心構えを教授しています。同様に、共同教員養成課程では教員という職業に必要な知識や技術を学びます。卒業するときには身につけた技能を社会で使うための教員免許という資格が与えられます。言い方を変えれば、最初から教員になるつもりのない人には、共同教員養成課程はあまり役に立たない場所かもしれません。なぜなら免許は活用して初めて、資格の意味を持つからです。将来の自分には何が必要なのか、よく考えてみましょう。

共同教員養成課程を選ぶ前に、あなたが将来教壇に立っている姿を想像してみてください。また、教員の仕事があなたにとってどのくらい魅力的なのか問い直してください。「うん、やっぱり教員になりたい」と思った人は、ぜひ共同教員養成課程に入学してください。金沢大学もあなたの教員への情熱をサポートし、幅広い知識と経験を提供します。そして、みなさんは卒業後に子どもたちの未来をサポートしてください。

金沢大学 学校教育学類長
山本 卓

金沢大学人間社会学域
学校教育学類長からのメッセージ



新学部の特徴

point

1 ユニークな教育体制

新しい学部はコースや学科に分かれていません。学生は入学すると数人ずつに分かれ、1～4年生の十数人の学生で「**学生ユニット**」を構成します。各ユニット単位の活動や、富山・金沢両大学のユニット同士の共同活動を通じて、他学年との交流に加え、同学年でもさまざまな教科、校種を目指す仲間との交流や学びが促進されます。

一方、専門的な知識や技能については、各自の取得希望免許や関心に応じた「**科目グループ**」を主体として学びます。免許については、小学校教諭一種免許状と合わせて、卒業時に最低2種類の教員免許状を取得することが必要です。ほかに、必要な単位を取得することで、保育士資格や各種の資格の取得が可能です。

このように**学生ユニット**と**科目グループ**の二つの仕組みを活用したユニークな教育・指導体制によって、学生の主体的な学びを促進しながら、広い視野を持った学校教員に育てていきます。

★ 学生ユニット

- ・各学年 4～5 人、1 年生から 4 年生まで十数人の学生で構成
- ・卒業まで複数の担当教員が継続的に指導（定期的な面談も）
- ・各ユニット、複数ユニット、金沢大のユニットなどと各種の交流、企画等を実施

★ 科目グループ

- ・各自の取得希望免許や関心に応じて専門的な知識や技能を学ぶ
- ・卒論等の指導体制の基盤
- ・より柔軟な免許状の取得や、専門的知識・技能の習得が可能

point

2 多彩な専門科目と幅広い知識の獲得

現代的教育課題に対応した先進的科目を中心に、富山大学と金沢大学の教員が相互に相手大学に授業を提供するので、学生はこれまでより幅広いテーマや分野の科目を受講できます。金沢大学が提供する科目も、実技などの一部の科目を除き、富山大学キャンパスで対面ないし遠隔授業によって開講され、金沢大学キャンパスへ移動する必要はありません。



専用ネットワーク接続
またはインターネット接続



point

3 合宿や教育委員会との連携を生かした現場体験

教育実習以外にも学校現場を体験する活動を重視します。両大学の1年生全員が合同で参加する合宿（必修）では、両大学の交流を図ると共に、教師の観点から野外活動実習を行います。また教育委員会との連携事業を活用し、小学校を中心に教育現場の体験機会も提供します。

取得可能な免許・資格

- 〔免許〕 ● 幼稚園教諭一種免許状
● 小学校教諭一種免許状（取得必須）
● 中学校教諭一種免許状（国語・社会・数学・理科・音楽^{*}・美術・保健体育・家庭・英語）
● 高等学校教諭一種免許状
（国語・地理歴史・公民・数学・理科・音楽^{*}・美術・保健体育・家庭・英語）
● 特別支援学校教諭一種免許状（聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者・病弱者）

^{*}音楽科免許科目は主に金沢大学キャンパスで開講

- 〔資格〕 ● 保育士
● コーチングアシスタント（日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格）
● アシスタントマネジャー（日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格）
● 公認スポーツ指導者 共通科目Ⅰコース修了（日本スポーツ協会）

新学部のポリシーについて

このような人を求めています

専門職としての教員を目指す熱意にあふれ、仲間と協力しながら専門的能力・技能を伸ばしている人を求めます。特に以下のような点を重視します。

- ・教育を通じて、地域社会の発展に貢献しようという強い意志を持つ人。
- ・教員を真摯に目指し、人を育てることの大切さと喜びを感じられる人。
- ・現代の教育課題を含む幅広い分野に興味・関心を持っている人。

このような教育を行います

- ・学校教育についての理解を深め、教員としての専門的知識と実践力を学ぶ。
- ・現代的教育課題に挑戦する意欲や能力を身に付ける。
- ・1つの専門領域や校種に限定せず、幅広い視点を養う。

このような人を育てます

豊かな人間性と社会性、教育への情熱と使命感を持ち、教科や教職に関する専門的知識と技能を身に付け、新たな教育的課題に適切に対応できる実践力を備えた、以下のような教員を育てます。

- ・教員としての豊かな人間性と社会性、幅広い教養と知性を持ち、自己研鑽を積む態度を身に付けている。
- ・子どもへの教育的愛情、教員としての使命感・責任感・倫理観、子どもの理解に関する知識を身に付けている。
- ・教職に関する専門知識と技能、教育を実践する基礎的能力を身に付けている。

^{*}各ポリシーの全文は、本学ウェブサイトに掲載しています。



附属中学校での授業実習風景

豊かな人材を 育てるために

◆教育実習

教育実習は附属学校園だけでなく、協力学校にもお願いし、学生を受け入れる体制を整えていただいています。大学で実体験としては学びにくい発問の仕方、板書の仕方、児童・生徒との接し方など、実際に教育現場に立ったときに役立つ内容について、学生たちは丁寧な指導を受けられます。

このように、教育学部の学生が教師として求められる資質や能力を身につけるための環境と体制について、常に心を配っています。



附属小学校での教育実習



附属中学校での教育実習



附属幼稚園での教育実習

■富山県教育委員会との協力で実施される特色ある事業

■学校インターンシップ（学びのアシスト／スタディ・メイトジュニア）



小学校の現場を1年生から体験

「学校インターンシップ」は、4月から2月までの通年で、講義と配置校(小学校)での実習を併せもった創造的な授業です。この授業を通して、富山をはじめとする郷土に愛情と誇りをもって、生き生きと逞しく生きていく力を子どもたちに育むことに使命感をもって臨む教師が、一人でも多く育つことを期待しています。

第1ターム・第2タームの講義を通して、学校や教育や子どもについての知識を得たのち、9月上旬から2月下旬までは学校現場での実習となります。この後期の実習では、2つのコースにわかれます。Aコースは「学びのアシスト」、Bコースは「スタディ・メイトジュニア」です。どちらも学校現場に身を置き、子どもたちの学びや育ちを支援します。

Aコース「学びのアシスト」は、学級担任として学級経営をどのように進めていくかを理解することを重視したコースです。学級担任は、学校の教育目標の効果的な達成を目指して、また学級の子どもの健全な成長を願って学級経営案を構想し、責任をもって実施、評価、省察していくことが求められています。この一連の諸活動の営みにアシスタント・ティーチャーとして参加し、日々の学級経営を推進している教師の仕事をも具体的に理解していくことを目指します。

Bコース「スタディ・メイトジュニア」は、特に子どもの視点に立った支援とはどのようなものかを理解することを重視したコースです。学級内の子どもはそれぞれが個性や特徴を持っており、決して一様ではありません。中には学習や友達とのかかわり方につまずきを抱えている子どももいます。さらに大事なこととして、こうした子どもの中には外見からはなかなか理解されないけれども「発達障害」という障害を抱えていることもあるのです。こうした子どもたちをサポートするために、教員免許を取得しようとする学生と一緒に教室に入って活動する「学生支援員」という制度が全国的に始まっています。富山県では、一般市民の方がボランティアで学校に入って支援する「スタディ・メイト」という制度がすでにスタートしています。その学生版が「スタディ・メイトジュニア」です。このコースでは、子どもの特徴を的確にみる眼と、個々の子どもに応じた適切な支援方法の獲得が必要です。なお、Bコースでの活動要件を満たすと、富山

大学も加盟している「アクセシビリティリーダー育成協議会」が認める「アクセシビリティリーダー1級」の資格取得のために必要となる教育課程のSTEP3を修得したことになります。

両コースともに、富山県(市町村)教育委員会と富山大学教育学部の緊密な連携・協力のもと、教員志望の学生が進んで個々の学校にボランティア教師(アシスタント・ティーチャー)として直接参加し、学級経営活動や子どもの支援活動に携わりながら、自らの資質・能力等の向上を主体的に図っていくような姿勢が不可欠です。

また、この授業には富山県教育委員会から交通費の助成があります。将来の子どもの教員の担い手である皆さんは、県から大きな期待をされています。

学びのアシストに参加して

先生たちは、どうしたら効率よく作業が進むか、危険はないか、子供たちが楽しんで作業することができるかなど、たくさんのことを考慮して授業構成をされており、先生同士の情報共有を行っていました。また、子供たちはみんな先生から褒められるとうれしそうな顔をし、自分に自信をもつことができているので、褒めることはとても重要なことだと改めて実感しました。

私は、最初はただ単にすごいねとしか褒めることしかできませんでした。回を重ねるごとに具体的に褒めることができるようになり、声かけも自分からその子に応じてかける声を変えられるようになりました。子供や先生から頼ってもらえたり、私に来ることを楽しみにしてくれていたことがとてもうれしかったし、たくさんのことを学ぶことができました。

(「学校インターンシップ」報告書から)

スタディ・メイトジュニアに参加して

支援級の子供たちはたくさんの頑張りや成長を見せてくれました。行く度にできることが増えていて、日々のステップへと進んでいるのを見て取れました。挨拶やコミュニケーションがだんだん増えたことによって、頼ってくれることも多くなり、私もサポートがしやすくなったので、相互の理解や信頼関係はとても大切だと感じられました。

支援級の先生方はただ褒めるだけではなく、「昨日は～だったけど今日はできたね」等具体的に褒めていました。毎日着実に成長している証拠を授業終わりにノートに「ほめほめポイント」を書いておられる時もあり、私も書いてあげるととてもうれしそうでした。支援級の子供たちをはじめ全校の子供たちや先生方本当にありがとうございました。

(「学校インターンシップ」報告書から)

■地域教材研究（富山学）

本講義の目的は、富山県に関する歴史・自然・産業・文化など富山県に特色ある内容を取り上げ、地域に対する理解を深めることを通して、(1) 教員としての情熱・希望・使命感を高めるとともに(2) 教材開発などの実践的指導力の向上を図ることにあります。この講義においては、富山県教育委員会から派遣された各教育事務所等の指導主事の方を講師として、15回の講義の内12回を担当していただいています。

受講学生の感想

この講義を通して地域教材を学ぶ中で得られたものは私たち大学生だけではなく子どもにとっても、地域教材を有効に使えることが多いのではないかとことです。例えば、数学の文章問題を作るときに問題文中にその土地の名前や標高といったものを取り入れることをすれば子どもは自然と自分の住む地域のことを知ることができ、興味がなければ知らないような地域の情報でも身近に感じることができるのではないかと考えます。このように少しずつでも自分の地域に関心が持てるようなことを授業に取り入れていくことで子どもたちの様々なものを知る機会を広げられるのではないかと考えます。また、地域教材を学ぶことで正しい調査方法、学習方法を得ることができます。さらにその地域教材で地域の経済的な動向などをつかむことができれば、もしその土地で仕事に就いたときに利益を増やせるような戦略方法を考えることに役立つと考えます。このように「富山学」での学びは将来的に活用されることが多いのではないかと考えます。（「富山学」最終レポートから）

■心のサポーター

学部授業「臨床心理実習」として実施します。県教育委員会、市町村教育委員会及び富山大学教育学部の連携・協力のもと、心理学系の3・4年及び大学院生を県内の小・中学校（主に中学校）に派遣し、休憩時間や放課後等に行う相談活動の補助を同一校において継続して行います。相談活動を一層充実させ、個に応じたきめ細かな支援を推進するとともに、教員志望の学生等の資質能力の向上を図ります。

■観察実験アシスタント

授業やゼミの空き時間を活用し、毎週1回程度通勤する「長期のインターンシップ（有給）」で、小学校・中学校理科の実験・観察の準備・片付け、予備実験、授業補助、理科室や理科準備室等の環境整備をするのがその仕事です。いずれも、小・中学校の理科の授業を行うための重要な仕事で、これらを経験することで、学生時代に理科の授業づくりについての現場感覚を磨いています。

観察実験アシスタントが理科の授業に必要な基本的な知識や技能を身に付けるために、6月と9月に富山県総合教育センターで行われるのが実技研修会です。6月は前期勤務開始の学生が、9月は後期勤務開始の学生がそれぞれ受講対象で、物理、化学、生物、地学の4分野に分かれて研修を受けます。

研修内容は、単眼（双眼実体）顕微鏡による微生物・鉱物の観察や水溶液のろ過および蒸発乾固といった小・中学校理科の指導に直結する内容、実験器具の洗浄方法や電気を使った実験の基本操作と安全指導、児童生徒への学習補助の仕方など多岐にわたります。これらの研修内容は、観察実験アシスタントとしての仕事のみならず、将来教職に就いたときにも大いに役立つものです。

■英語学習パートナー

英語を得意とする大学生を小学校に派遣し、英語学習パートナーとして外国語活動・外国語科の指導補助に取り組むことにより、児童の英語でのコミュニケーションへの意欲の向上を図りながら、指導を一層充実させるとともに、教員志望の大学生の資質・能力等の向上を図ります。

●令和3年度に行われた講義の内容

- 第1回 「富山学」とは何か
- 第2回 地域教材研究とは何か
- 第3回 富山の体育・スポーツ
- 第4回 ものづくりから学ぶ
- 第5回 海外に住む富山の子供 富山に住む海外の子供
- 第6回 富山の植生と校庭の植物について
- 第7回 英語で伝える富山のよさ
- 第8回 富山と発電 ～脱炭素社会に向けて～
- 第9回 とやまのこぼ ～方言と敬語～
- 第10回 富山ってどんなところ？ ～ゆるキャラと学ぼう！～
- 第11回 とやまの食文化（日常食・郷土料理・行事食）
- 第12回 くらしたい国、富山 -その魅力を探る-
- 第13回 郷土の先人 夢・志・挑戦
- 第14回 富山の美術館
- 第15回 「富山学」まとめ

豊かな人材を
育てるために



観察実験アシスタントでは、主に理科の実験の準備や後片付け、理科室の整理整頓などを行います。

理科の実験では、配属校の先生とコミュニケーションをとりながら実験器具を準備したり、子どもたちの活動を見守ったりしました。この活動が初めてということもあり、最初は戸惑うことばかりでしたが、次第に慣れてくると、自ら必要な実験器具を考えて準備することや、子どもに対して必要な支援や声掛けをすることができるようになりました。そして、自己の理科の専門知識を深めるとともに、学習内容に対して子どもと共に考える楽しさを実感することができました。

他にも、実際の教育現場に携わることで、最新の教育事情に触れることができ、さらに、先生方の授業から学ぶことができました。

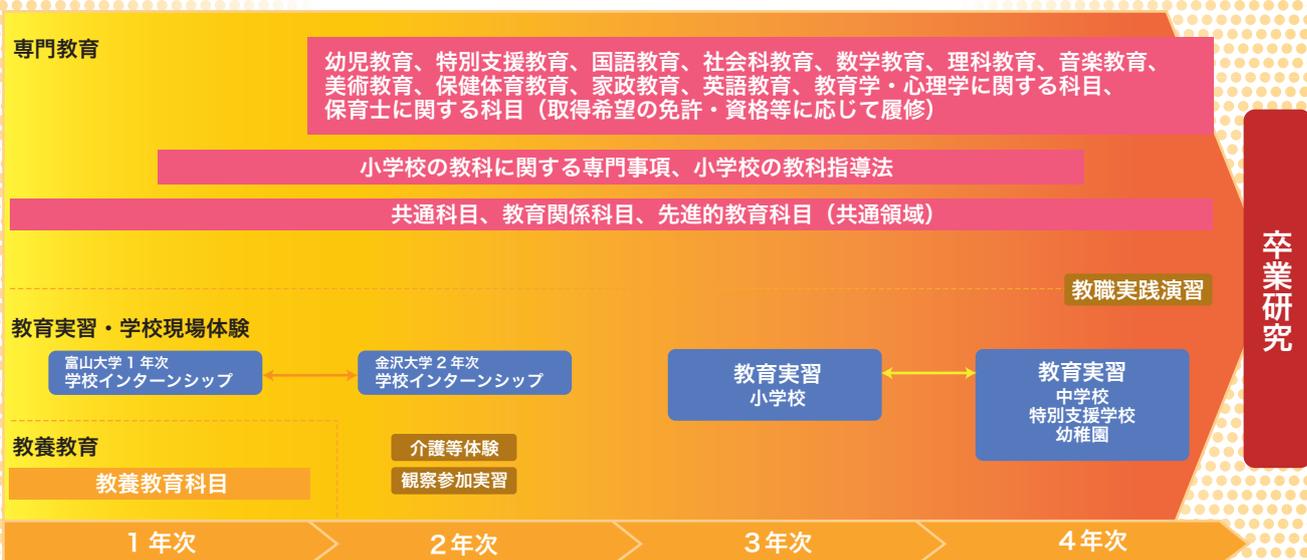
休み時間では、子どもたちとコミュニケーションを図ることで、理科の授業以外での子どもの姿を発見することができ、子どもと関わることの楽しさや教員になりたいという気持ちを改めて実感することができました。

観察実験アシスタントの活動を通して、理科の専門的知識を深めるだけでなく、先生方や子どもたちから多くのことを学び吸収することができました。この貴重な経験を生かして、日々の大学生活や教育実習、将来の教員生活に活かしていきたいと考えています。（人間発達科学部発達教育学科学校教育コース4年 加茂野真唯）

観察実験アシスタントに
参加して

4年間の学習の流れ

専門的な知識・技能に関する教育と、教育実習・学校現場体験等を並行して履修し、専門性と実践力を兼ね備えた教師を育成するためのカリキュラムを用意しています。



共同教員養成課程での学び



共同教員養成課程では、入学するとまず、それぞれの大学で教養教育／共通教育を受けることになります。その後専門科目を受けることになりますが、合同合宿や実技の授業などの一部を除いて、教員による両キャンパスでの同一内容の対面講義や、双方向遠隔授業システムの活用などによって、所属大学のキャンパスで卒業に必要なほとんど全ての授業が受けられます。

子どもとのふれあい体験

「子どもとのふれあい体験」は、旧教育学部、人間発達科学部時代を含め 20 年以上続いている、本学部の 1 年生から 3 年生対象の特徴ある授業科目です。社会教育や生涯教育の分野で子どもとふれあう体験を通して、教育の本質を体験的に学ぶ機会を提供する目的で設定されています。この科目は、単に大学内だけに留まらずに、各コースとも地域社会に出て、関係団体・施設等との関わりの中で、人を育てる人を育成する科目として非常に重要な役割を果たしています。この科目を選択して、年間 60 時間の活動を行い、体験レポートを作成すると、2 単位を取得できます。教員をめざす学生のみならず、公務員や一般企業への就職をめざす学生にとっても、社会と繋がる貴重な実践の場として認識されています。

子どもとのふれあい体験 各コースの紹介



1 野外活動コース(1,2,3)

本コースでは、ボランティア活動の基本的な考えや野外活動（自然体験）の魅力を理解するとともに、野外活動を安全に実施するための基礎的技術を習得し、子どもたちと充実した野外活動ができるようになることを目指します。

子どもたちの学習や生活をサポートする活動を通して、子どもたちの学習・生活上の特性や関係づくりの方法を理解し、子どもの発達を支援することを学びます。

学校教員になった際には、学外実習として開催される遠足や修学旅行で活用できる知識や技能となります。



2 遊び援助コース

遊び援助コースは、児童期の健全育成を体験的に理解するためのコースです。小学生は家庭・学校で生活するだけでなく、地域の様々な施設を利用して毎日を過ごしています。このコースでは、健全な遊び場を提供して放課後や土日祝日・長期休業中の子どもたちの生活を支える、児童福祉のための施設で子どもたちとふれあう体験を行います。このコースに参加することで、学校では見られない子どもの姿を身近に感じたり、小学校が児童健全育成施設とどのように連携すべきなのかを考えたりますことを目的としています。



3 幼児の運動遊びコース

本コースでは、子どもたちと一緒に、わくわくしながら運動遊びを体験します。運動が得意な人は、体を動かす楽しさを、子どもたちと分かち合いませんか？運動が苦手だと思っている人は、苦手意識があるからこそ、工夫して、「楽しい♪」、「できそう!」、「できた!!」と思える運動遊びを作成してみませんか？

上の写真は、令和3年度に実施したクリスマス運動教室の様子です。運動遊びを通して、子どもたちの笑顔を沢山ひきだすことができました。このようなプロジェクトと一緒に企画しましょう。



4 美術館子どもワークショップ運営コース

本コースでは、富山県内の美術館における子ども対象のワークショップ「とみだい☆ベケベケアートショップ」を準備・運営します。ここでは、展示作品の鑑賞をきっかけにした制作を行うワークショップを通して、子どもたちとふれあうことを目的とします。美術作品に親しむことを核にした作品との出会いの仕組み方や、楽しいものづくりの準備を行うことで、子どもたちに興味・関心を抱かせるための活動をどのように運営していくかについて実践的に学ぶことができるようになります。

昨年度は、オンライン開催や鑑賞後の作品作りのための材料提供のみの回も含め、合計6回のワークショップを開催しました。



5 科学実験・ICT活用コース

本コースでは、主に学校外における教育機会への参加を通じて、子どもとのふれあいの中で広い意味でのサイエンス・教科教育・ICT 活用を行うための基礎を学びます。子どもに「楽しい」「面白い」と感じてもらう正しい科学や ICT の知識を身につけてもらうための工夫を重ねる中で、自分自身（受講生）の学習と教育実践を結び付ける力を養います。

子どもたちを対象にした楽しい実験の場を設けるための企画立案や実験内容の検討を行いながら、安全に配慮した子ども向け実験・ICT 活用を行うための力を養います。



6 発達の気になる子どもの援助コース(A,B)

小学校や中学校には、軽度の知的障害児や発達障害児、そして特に医学的な名前はないけれども、発達が気になる子どもが数% 在籍しています。本コースでは、発達障害児などの子どもを育てている親の会で、『富山県 LD 等発達障害及び周辺児者親の会「ゆうの会」』に参加して、子どもたちの健全育成を図ります。

「ゆうの会」それ自体は親の会ですが、その子どもたちは発達障害や軽度の知的障害を有しています。こうした子どもたちに、健全な遊び場や社会参加・社会貢献できる場を保証することで、子どもの発達を促す場づくりを行っています。なお、本コースは、子どもの年齢に応じて小学部と中・高部の2つのグループに分かれています。

富山大・金沢大 合同!

野外体験活動

小学校や中学校で実施されることの多い野外体験活動の目的と学習効果について、自然体験合宿を通して実践的に学びます。また、合宿の準備、実体験、振り返りを通して子供の発達段階に対応した野外活動の指導に必要な知識や技術を習得します。

この活動は、富山大学と金沢大学の学生ユニットが合同で参加します。



A日程	第1日	6月 25日 (土)	第2日	6月 26日 (日)
B日程	第1日	7月 2日 (土)	第2日	7月 3日 (日)
	活動内容		雨天時	
7			6:30 起床・清掃	
8			7:45 朝食 8:45 部屋点検	荷物→プレールーム
9	9:30 到着→宿泊荷物をプレールームに置き、バスで医王の里へ	クラフト バードコールと木ホルダー作り	午前 の活動	同左
10	10:00 登山開始(三蛇ヶ滝) ユニット		9:30 まきまきパン調理開始 活動班	
11				
12	12:00 昼 食		12:00 昼 食	
13			13:00 バレーン水ロケット 活動班	1日目 晴れの場合 バードコールと木ホルダー作り 1日目 雨の場合 熱気球 15:00 解散
14	16:30 こども棟着	13:00 雨天:安全な範囲での里山オリエンテーリング 16:30 雨天:指導員引率の元里山問題を解決しながらレインフォーク	午後 の活動	
15	16:30 宿泊オリエンテーション(つどい)		14:30 別れのつどい	
16	宿泊班 自由時間(入浴を含む)	16:30 宿泊オリエンテーション(つどい) 自由時間(入浴を含む)	15:00 解散	
17				
18	18:00 夕 食			
19	19:00 プラネタリウム(こども棟)			
20	19:50 天体観望(借がなげれば) ユニット	同左		
21				
22	22:00 消灯・就寝			
備考				

社会科基礎 A

富山県・石川県に関する近年の地域研究の成果も踏まえながら、地域学習の比重の大きい小学校中学年(3・4年生)での社会科授業を組み立てていく力を養うことを目的とします。社会科の3つの分野について、具体的には以下の内容とします。地理的分野では、身近な空間を経験する中から地理的知識を発見する方法、それを整理し理解する方法などについて体得します。歴史的分野では、初等中等教育における歴史教育の在り方と問題について認識を深めます。公民的分野では、初等中等教育において教える基本的概念を理解します。総じて社会科を支える各学問の基本的視角やその教育方法の理解を深めることを期待します。

初等図画工作科教育法 II

この授業では、学校教育の現場における取り組みを想定した内容の紹介を目指して構成しています。特に小学校の低学年から高学年にかけての図画工作科の各領域の題材を実際に体験しながら、学習指導要領(新学習指導要領を含む)を踏まえた理論との関連を確認し、この教科で身に付けるべき学力について、考えていくことができるようにします。



国語科基礎 A (書写を含む)

知識及び技能、「読むこと」「書くこと」領域の内容理解を目標とした授業を実践するための国語科の各分野の基礎知識を概説します。先行研究で基礎を固めた上で、エビデンスに基づく計量的な研究成果も踏まえて、現代的な国語科の授業・研究のあり方を提案します。知識だけではなく、十分な実践力を育成するために、必要に応じて簡単な課題の作成、発表など行う場合もあります。受講者と一緒に、地域・現代の文学作品、方言、伝統芸能を題材に地域に根差した国語科の学習を創造します。

初等音楽科教育法

小学校音楽科の授業では、音楽表現の技能や鑑賞に関わる知識を身につけるだけではなく、それらをもとに子どもたちがよりよい表現を工夫したり、音楽を味わって聴いたりすることが大切です。この初等音楽科教育法では、そうした授業をデザインできるようになるための理論を中心に、具体的な授業事例を紹介しながら学修します。



幼児と表現

幼児の表現(身体・音楽・造形)について学ぶ科目です。授業では、幼児の表現の事例を学んだり、その発達を促す遊びを実際に体験したりします。この写真は、幼児の造形表現の発達を促す教材作りを体験している様子です。



器械運動Ⅱ

この授業では、器械運動の指導法を学習する前提として、マット、とび箱、鉄棒の様々な技の習得を目指します。写真は、本学で開発された逆上がり練習器を使った練習風景です。



理科基礎A(理論)

小学校理科の授業(主な領域:エネルギー、粒子、生命、地球)を担当する力をつけるために、物理・化学・生物・地学の4分野に関する基礎的な理論を学びます。物理分野では振り子の運動やこの働き、音や光の性質、電気と磁石について、化学分野では物の溶け方や水溶液の性質について、生物分野では植物や動物のつくりや働き・成長や誕生および生物と環境の関わりについて、地学分野では土地のつくりや変化、天気の様子や変化および月と太陽についての理解を深めます。子供たちが理科を楽しみながら科学的思考力を伸ばす授業づくりの素養を育みます。



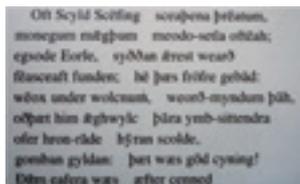
算数科基礎A(低・中学年)

小学校で算数を教える際に必要となる数学の基礎を学びます。特に、数、関数、方程式などについての理解を深めることを目的とします。数については、素数や約数の諸性質、商と余りの定理とその応用などを学びます。関数については、その定義を理解したうえで幾つかの具体例を考察します。方程式については、その仕組みを様々な角度から考えます。算数と数学へのさらなる興味をもたれることを期待します。



英語学概論Ⅰ

英語学の基本的な概念を学び、英文法をより深く理解するための基礎を作ることを目的とします。英語学の諸分野のうち比較的とつきやすい形態論や英語史などを手始めに取り上げます。形態論では、philosophy→philo+sophyのように単語の成り立ちや内部構造を勉強します。英語史では、cynning→kingのように昔の英語から現在の英語にかけての変化を考察します。こうした専門的知識を今の英語教育の現場でどう活かすのかも受講者各自が考えることを期待します。写真は昔の英語で書かれたベーオウルフという書物です。



西洋史学概論Ⅰ

日本の歴史の背景にある世界の歴史、という中学校社会の歴史的分野の視点、及び高等学校の課程で必修化される「歴史総合」の観点を意識して、現代のグローバルな視野・課題意識から、西洋史に比重を置きつつ世界史的な視野で古代から現代までの歴史を概観します。随時ディスカッションもしつつ、Iでは世界各地の経済的・文化的交流に目を向けながら、古代から中世までのヨーロッパ・地中海世界の変化を検討します。西洋史の視点での講義ですが、地域史に拘泥せずに世界の歴史を広く捉える歴史観を培うことを目指します。

調理実習

中学校・高等学校の家庭科教員として必要となる調理操作、および衛生面・安全面・環境面・栄養面などに配慮した食品の取扱いなど、調理実習に関する基本的な知識と技能を実践的に学びます。また、北陸地域の食材を用いた郷土料理についても扱い、理解を深めます。



教育学部で 開設している 科目を少しだけ 紹介します

特別支援教育実地演習

この授業では、特別支援教育の概要や障害種に応じた教育施設・教育内容について理解するため、視覚障害教育、聴覚障害教育、知的障害教育、肢体不自由教育、病虚弱児教育を行っている特別支援学校の施設及び授業見学を行ないます。大学における講義だけではなく、実際に特別支援学校を訪問し、具体的にかつ体験的に学ぶことができます。



教育相談の理論

この講義では、学校教育現場で起こりうる子どもの適応上の問題を理解し、実際の教育相談で使うことのできる学校カウンセリングの習得を目指します。その際、学校心理学を基盤としつつ心理教育的援助サービスの実態を理解し、すべての子どもを対象としたチームとして行う学校カウンセリングがどのようなものかについて考えていきます。



令和5年度 教育学部共同教員養成課程の入学選抜について

○実施する入学選抜

入試区分（定員 85 名）【 】内は各区分の定員を示す。	検査内容（概要）
前期日程	【62 名】 大学入学共通テスト、個別学力検査
後期日程	【10 名】 大学入学共通テスト、面接
総合型選抜Ⅰ（スポーツ実技型）	【5 名】 書類審査、実技検査、面接
総合型選抜Ⅱ（理数型）	【3 名】 大学入学共通テスト、書類審査、面接
学校推薦型選抜Ⅱ（幼児教育・特別支援教育型）	【5 名】 大学入学共通テスト、面接、集団討論
帰国生徒選抜	【若干名】 書類審査、小論文、面接
社会人選抜	【若干名】 書類審査、小論文、面接
私費外国人留学生選抜	【若干名】 日本留学試験、個別学力検査、面接



富山県へのアクセス

【東京から】

- ・飛行機で羽田空港から富山空港まで約1時間
- ・北陸新幹線でJR東京駅からJR富山駅まで約2時間10分

【大阪から】

- ・電車でJR大阪駅からJR富山駅まで約3時間10分
- ・車で名神高速道路～米原JCT～北陸自動車道～富山

【名古屋から】

- ・電車でJR名古屋駅からJR富山駅まで約3時間
- ・車で名神高速道路～一宮JCT～東海北陸自動車道～北陸自動車道～富山

【北海道から】

- ・飛行機で札幌・新千歳空港から富山空港まで約1時間30分



富山駅から五福キャンパスへのアクセス

【市内電車】

- ・富山駅前「大学前」行き、終点「富山大学前」下車／約15分

【路線バス】

- ・富山駅前「富山大学経由」(3番乗り場)、「富山大学前」下車／約20分

※五福キャンパス内の外来専用駐車場が手狭なためご来学にあたっては、なるべく公共の交通機関等をご利用くださいますようお願いいたします。

※五福キャンパス：教育学部、人文学部、経済学部、理学部、工学部、都市デザイン学部

※杉谷キャンパス：医学部、薬学部、富山大学附属病院、和漢医薬学総合研究所

※高岡キャンパス：芸術文化学部



富山大学Webサイト



Twitter

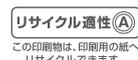


URL: <https://www.edu.u-toyama.ac.jp/jite/>

富山大学 教育学部

〒930-8555 富山県富山市五福3190 Tel. 076-445-6259

※掲載情報は2022年7月現在のものです。最新情報はWebサイトにてご確認ください。



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。